

研究講演会

新しい、和歌山平野の成り立ち



日時 2025年2月15日（土）13時00分～16時45分

※開場受付12時30分～

会場 和歌山市立博物館 2階 講義室

※入館料一般・大学生100円、高校生以下無料

※南海和歌山市駅から南西へ徒歩5分、JR和歌山駅から和歌山バス乗車、南海和歌山市駅下車、徒歩5分

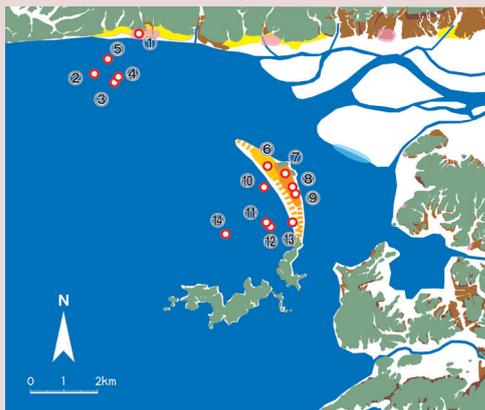
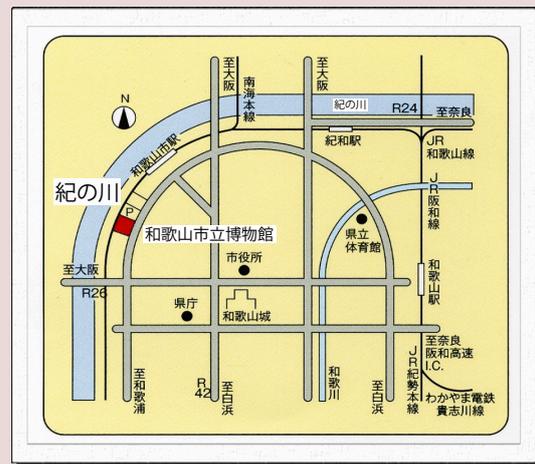
※有料駐車場有り

定員 120名（当日先着順）

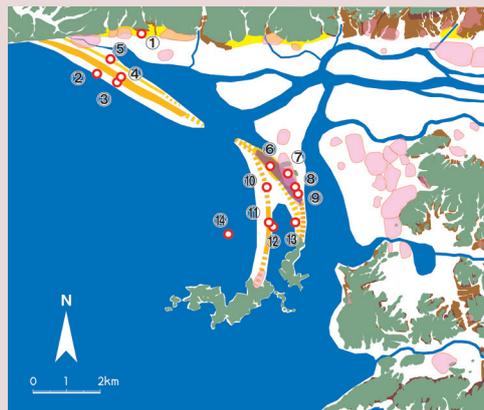
※参加費無料（ただし入館料が必要）

主催 （一財）大阪市文化財協会

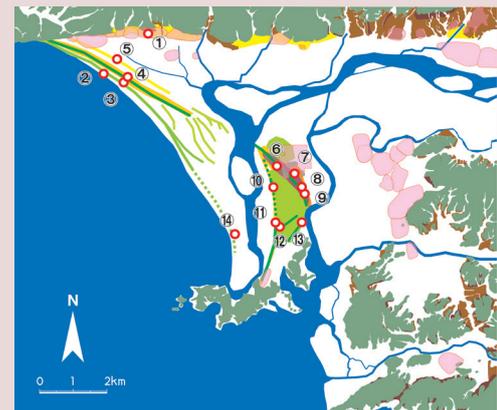
協力 和歌山市立博物館



縄文時代後期



古墳時代から飛鳥・奈良時代



安土・桃山時代

3枚の古地理図は2024年8月の日本第四紀学会で発表時のもの。

開催趣旨

和歌山平野の沿岸部には複数の砂丘列が分布します。40年あまり前、砂州（砂丘列）の発達と紀の川の流れに着目し、平野の形成を論じた地理学研究は高く評価されました。しかしその後、遺跡の発掘が進み新しい考古学的成果が蓄積されるとともに隣接科学の研究も進みました。そのひとつ光ルミネッセンス（OSL）法は、砂の中の石英と長石の粒から年代を測る方法です。この研究により、これまでよくわからなかった砂丘列に科学的な年代を与えることができるようになりました。

このたび考古学と地質学の研究成果、そして文献史と古絵図の調査により、新しい和歌山平野の変遷史を古地理図に描くことができましたので、専門家と和歌山市民の皆さんにその詳細を紹介します。

講演内容・プログラム

- 開場 12:30
1.開会 13:00
2.趣旨説明 趙 哲済（大阪市文化財協会）
3.平野の地形と地質 藤藪勝則（和歌山市文化スポーツ振興財団）
4.OSL年代研究 田村 亨（産業技術総合研究所）
5.遺跡・「紀伊続風土記」・古絵図からのアプローチ 福佐美智子（大阪府文化財センター）
6.和歌山平野の古地理復元
下部砂丘堆積期
中部古土壌生成期・同時期の砂丘堆積期
上部砂丘堆積期1（冬季モンスーン増大期）
上部砂丘堆積期2（明応地震津波以降）
大木 要（和歌山市文化振興課）
菊井佳弥（奈良市教育委員会）
瀬谷今日子（和歌山県教育庁）
金澤 舞（和歌山県教育庁）
ほか
7.コメント
8.閉会 16:45